

# えいらい

No.44

令和2年7月発行

発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

夏号  
2020



〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026  
発行責任者／理事長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

## 院長就任にあたって



院長 柚木 茂

このたび、令和2年7月1日付で山本祐司理事長より一般財団法人永頼会松山市民病院院長を拝命いたしました、柚木 茂(ゆのき しげる)です。平成2年に着任以来、外科診療を担当し、病院の一員として地域医療に従事してまいりました。院長として至らぬ点が多々あると思いますが、なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

まず、今般の新型コロナウイルス感染症により未だ闘病生活を送られている患者さんの早期回復を願うとともに、亡くなられた多くの方の御冥福をお祈り申し上げます。

当院が一般業務と救急輪番病院としての救急業務をこなし、今まで無事診療が継続できたのも、市民の皆様の御理解、御協力と職員全員による感染対策への取り組みによるものと心から感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により緊急事態宣言が発動され、3密を避けるために社会・経済活動が厳しく制限された結果、感染症はいったん収まり、規制緩和が始まっています。ただ感染者がゼロになったわけではなく、3密を避けるための制約された生活が続き、さらに第2波、第3波の流行も懸念されています。

その中での社会・経済活動は以前とは違ったものになり、社会全体が経済的に困窮し、当院も同じように厳しい状況下にあります。このような局面に、院長職を拝命するにあたり、その重責に身の引き締まる思いです。皆様の御指導をいただきながら日々精進していく

所存でございます。

振り返ってみますと、阪神淡路大震災の際は、傷病者を震災被害のない地域に搬送することが十分にできませんでした。その後、ドクターヘリが全国に整備され、県などの行政区域を越えて、適切な治療のできる施設に患者を搬送することができるようになりました。

新型コロナウイルス感染対策には、今までにない病院管理が必要とされ、松山市民病院の役割を考える良い機会になりました。この局面を乗り越え、地域に求められる病院であり続けるために、以下の3つの目標を掲げて病院運営にあたりたいと思います。

1. 地域の発展に貢献できる病院になるために、救急・癌治療などの急性期基幹病院として病院を改革する
2. 働き方改革で業務を整理し、人材を育てる職場環境を作り、医療レベルの向上を目指した人員の確保と育成をする
3. 安定した経営維持のための改革を行う

今年のスローガンは「令和新時代とともに歩む医療ーキーワードは治す・支える・癒す・活かすー」です。困難な時こそ、市民の皆様を治し、支え、癒しながら今までの経験を活かして病院の運営に取り組んでまいりたいと思います。

改めて関係者の皆様の御指導、御支援のほどよろしくお願いし、就任の挨拶とさせていただきます。